

女性の貧困問題の構造

立命館大学産業社会学部
丸山里美

本報告の構成

- 1) なぜ女性は貧困なのか
- 2) 見えにくい女性の貧困
- 3) もやい女性相談者の特徴
- 4) 近年の変化と若年女性
- 5) 女性ホームレスの生活史の特徴
- 6) 今後必要な政策

1) なぜ女性は貧困なのか

- 性別役割分業が社会システムに組み込まれているから
- 労働も社会保障も、「女性の家族依存」(山田の
前回フォーラムより)を前提にしている
- それゆえ女性労働は不安定で低賃金

1)なぜ女性は貧困なのか

女性の家族依存モデル(山田の前回フォーラム資料より)

戦後日本社会(近代性別役割分業社会)

ü女性 - 家族によって包摂されていることが前提

未婚女性 (父)親

既婚女性 夫 正規雇用者か自営業者

(高齡女性 遺族年金か、家業の跡継ぎ息子)

ü社会保障制度

社会保険

家族に包摂されていることが前提

公的扶助

(包摂できる)家族がいない人対象

1) なぜ女性は貧困なのか

女性労働の家族依存モデル

(山田の前回フォーラム資料より)

腰掛けとパート主婦

- 日本社会 女性が労働によって包摂されることは想定されなかった
- 未婚女性 住居や収入がある「親」によって基礎的生活条件が用意される
(離別女性も実家に戻る率高い - 戻れない人が大変不利)
- 既婚女性 正規職員か自営業者の夫の収入によって生活が維持される

1) なぜ女性は貧困なのか

女性労働は低賃金で不安定

- 女性は非正規労働が多い

非正規雇用者の70.2%が女性(2012)

- 女性の賃金は低い

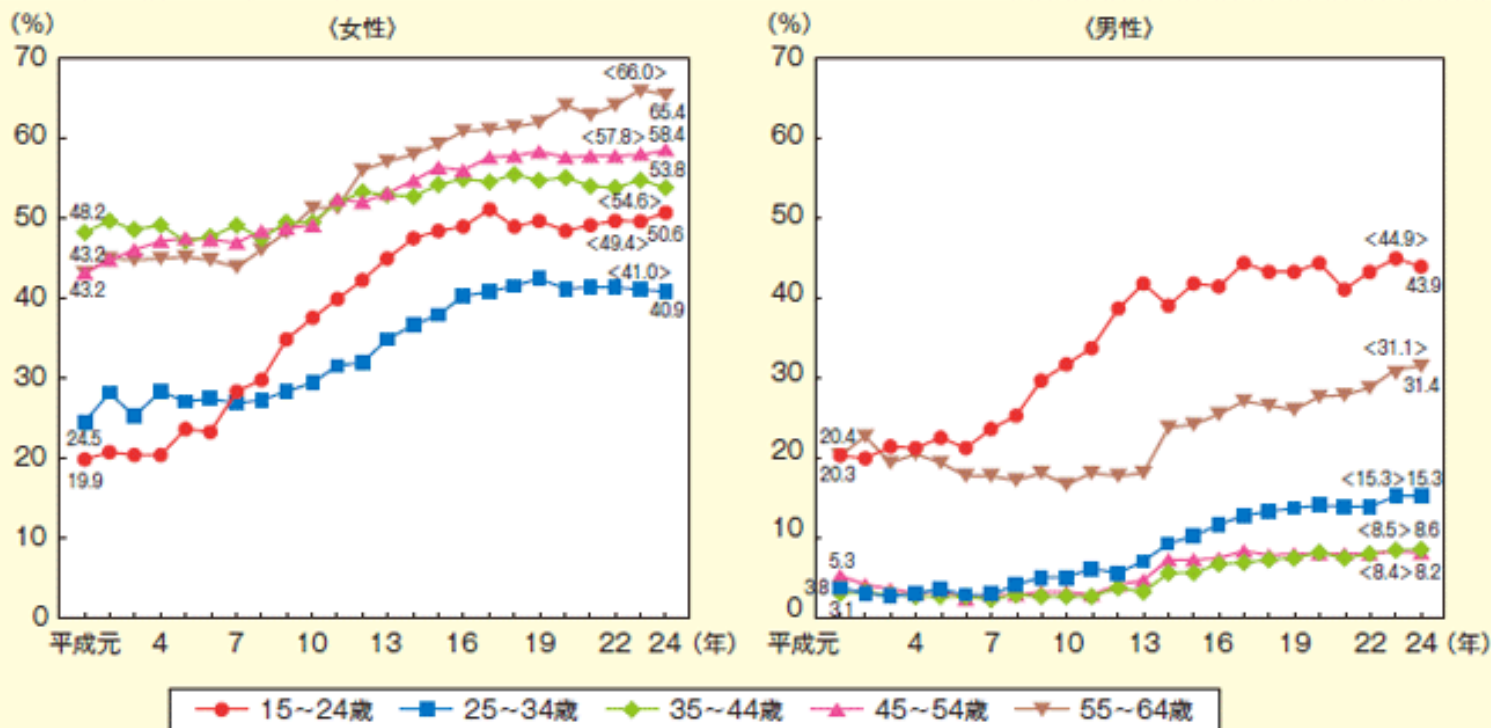
女性一般労働者は男性を100としたときの70.9(2012)

女性短時間労働者は // 50.5

1)なぜ女性は貧困なのか

女性は非正規雇用者が多い

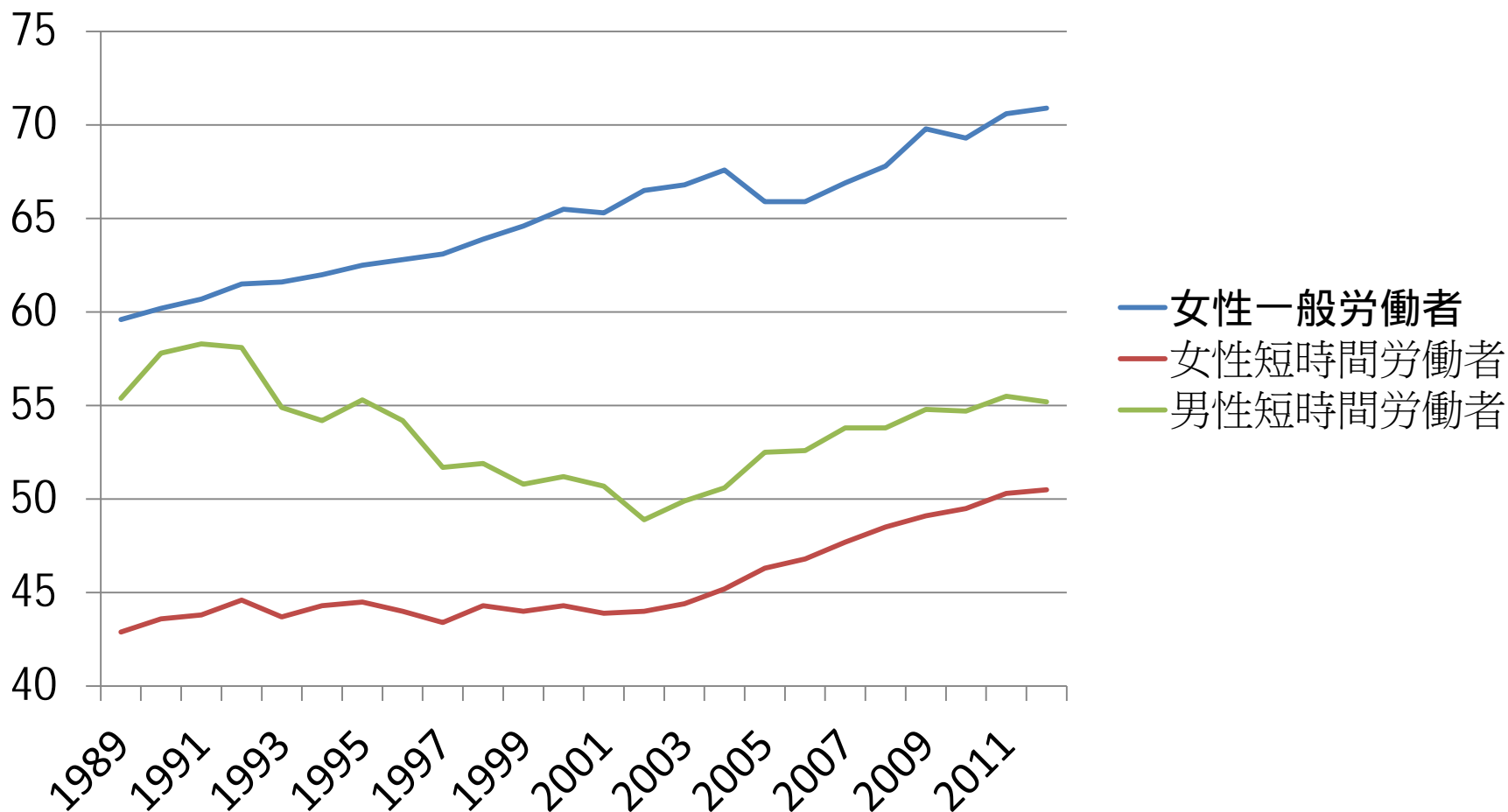
第1-2-9図 年齢階級別非正規雇用者の割合の推移（男女別）



- (備考) 1. 総務省「労働力調査（詳細集計）」より作成。
 2. 非正規雇用者の割合 = (非正規の職員・従業員) / (正規の職員・従業員 + 非正規の職員・従業員) × 100。
 3. 平成13年以前は「労働力調査特別調査」の各年2月の数値、平成14年以降は「労働力調査（詳細集計）」の各年平均の数値により作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査（詳細集計）」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
 4. 平成23年の<>内の割合は、岩手県、宮城県及び福島県について総務省が補完的に推計した値を用いている。

1)なぜ女性は貧困なのか

女性の賃金は低い(男性一般労働者を100とした場合)



資料:厚生労働省『就業構造基本調査』より作成

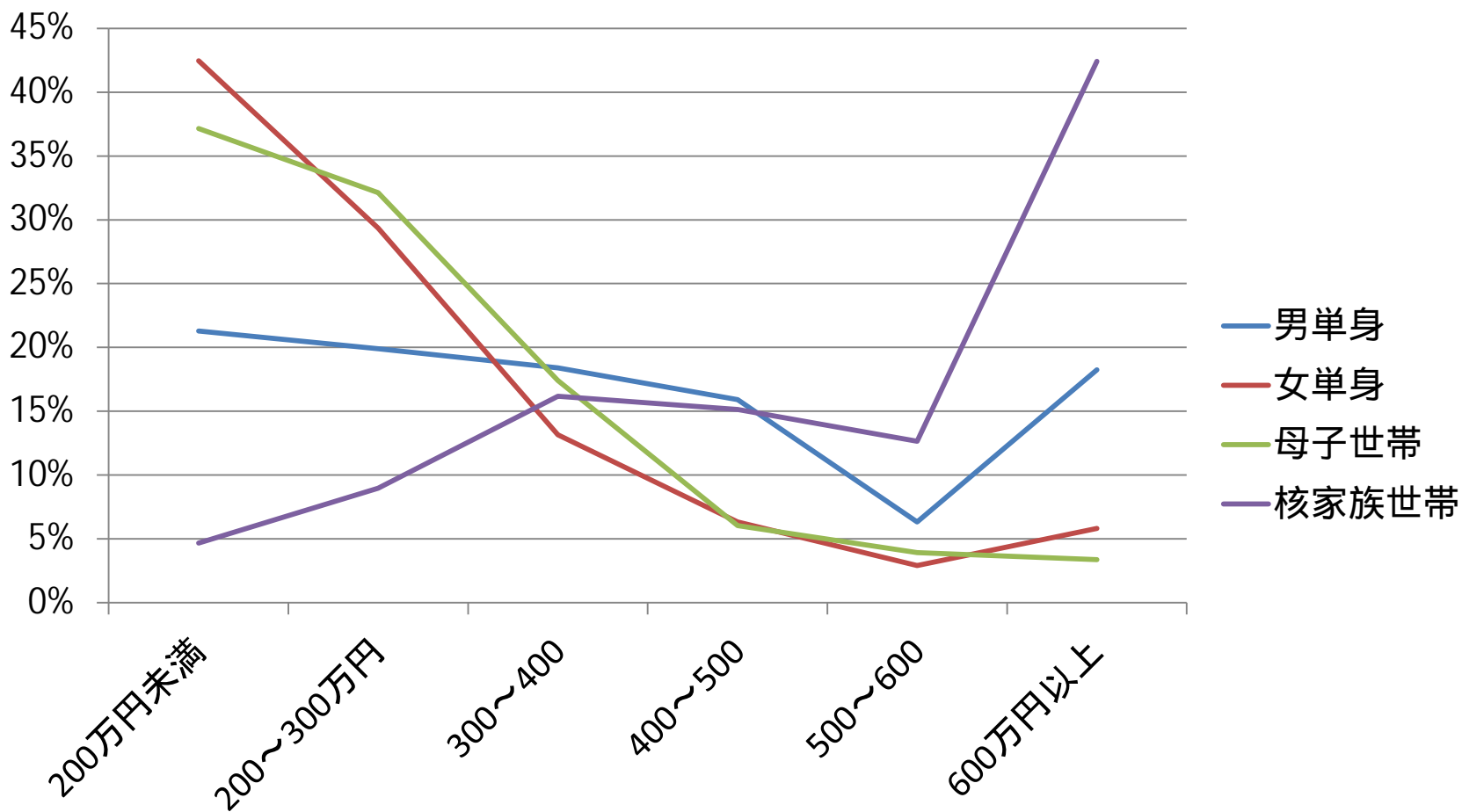
1)なぜ女性は貧困なのか

労働or家族に包摂されない女性が貧困に

- 女性には3つの包摂先がある (山田の前の資料より)
労働、家族1(夫)、家族2(父)
- 3つのいずれかに包摂されない者が貧困に
母子世帯
未婚女性
離死別による単身女性

1) なぜ女性は貧困なのか

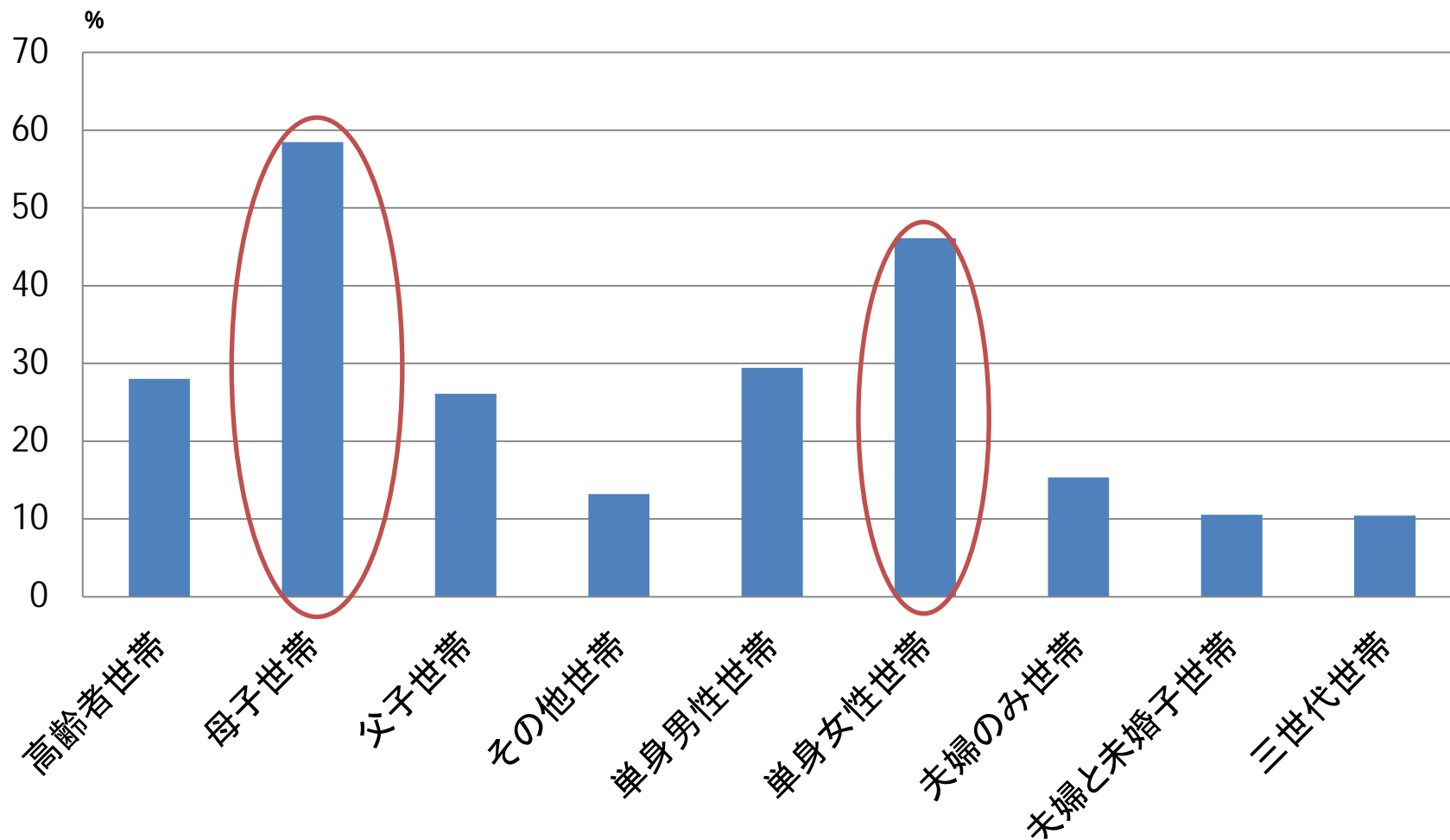
世帯類型別年収



資料:厚生労働省『平成24年国民生活基礎調査』より作成

1) なぜ女性は貧困なのか

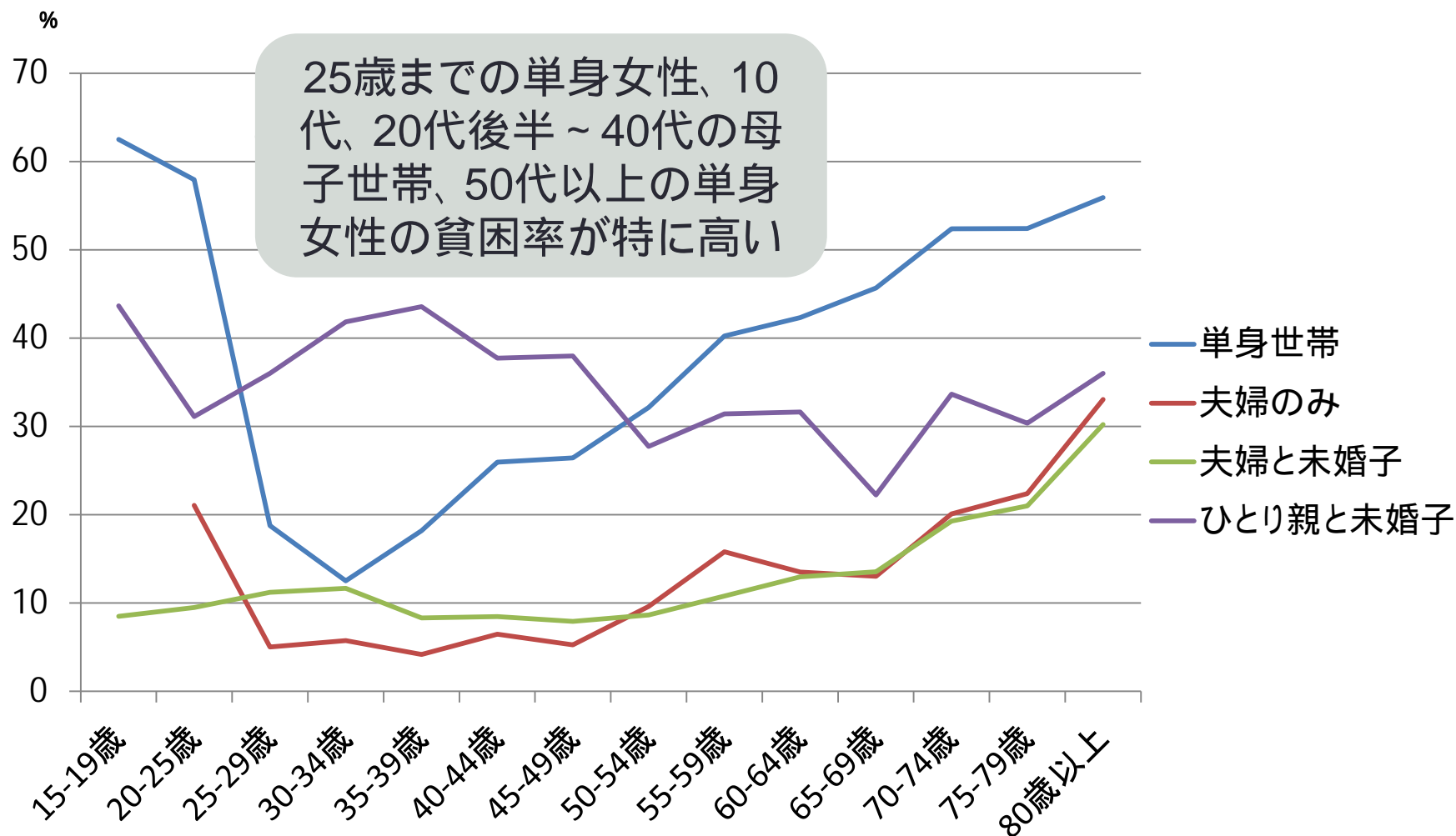
世帯類型別の貧困率



資料: 『生活困難を抱える男女に関する検討会』(2010)より作成

1) なぜ女性は貧困なのか

女性の世帯類型別貧困率

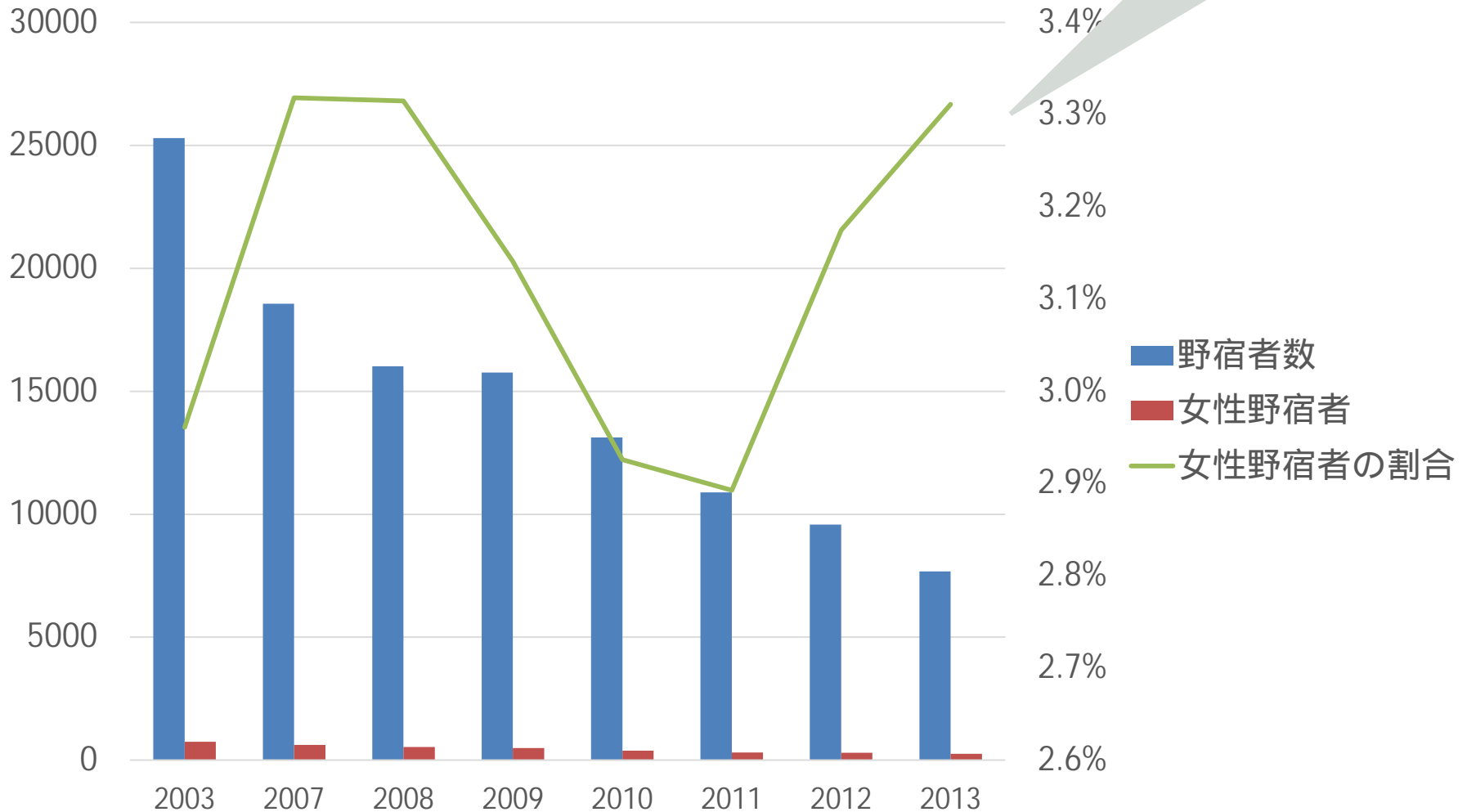


資料: 『生活困難を抱える男女に関する検討会』(2010)より作成

2) 見えにくい女性の貧困

野宿者の数と女性の割合

野宿者のうち女性は3.2%で少ない



資料:厚生労働省『ホームレスの実態に関する全国調査(概数調査)結果』より作成

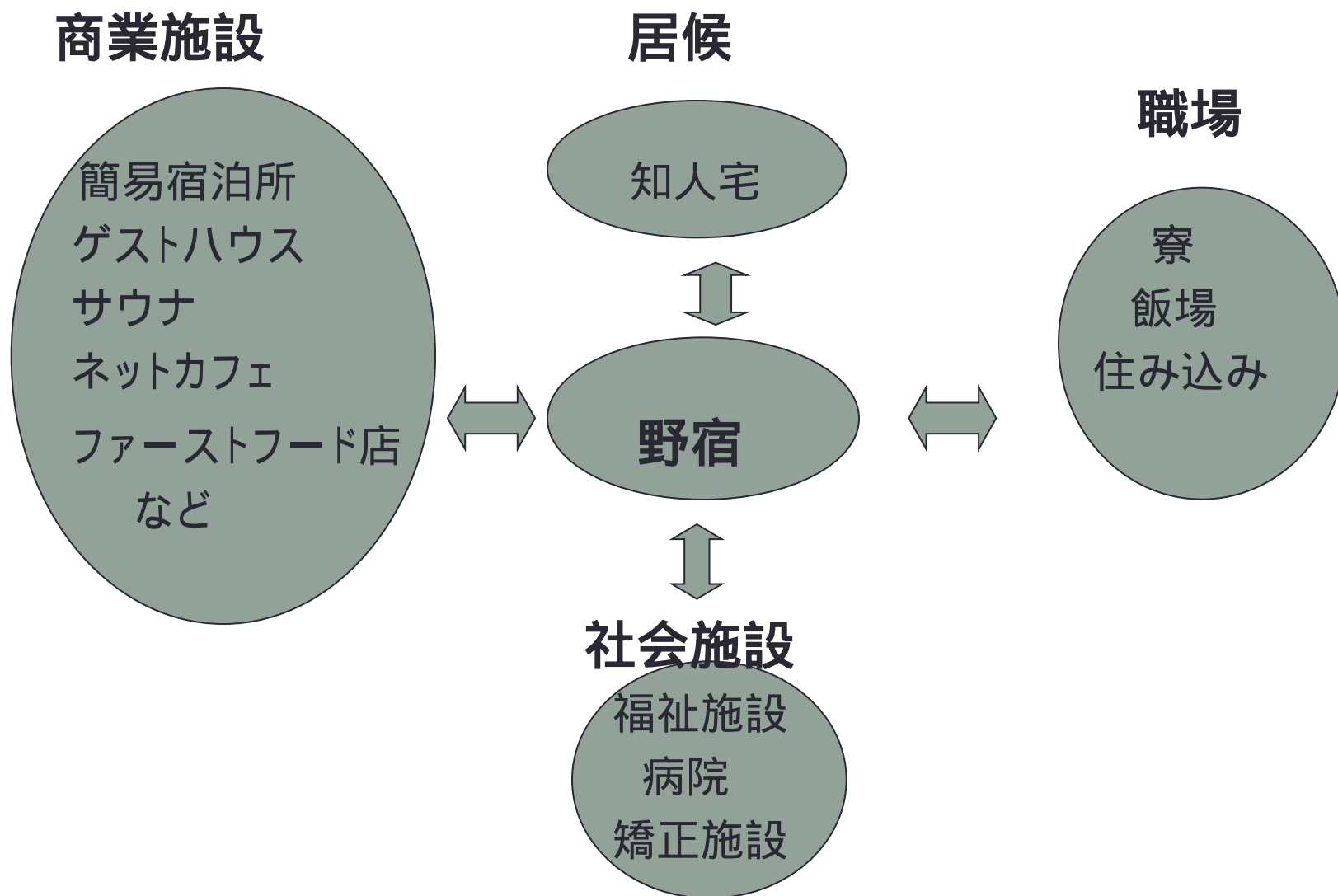
2)見えにくい女性の貧困

ホームレスの定義

- 日本
「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者」
= 路上生活者
 - イギリス
 - 1) roofless 路上生活者
 - 2) homeless 短期シェルター・ドヤ・精神病院等
 - 3) insecure 居候・立ち退き・スクウォッター
 - 4) intolerable 過密・暴力・基準以下の住宅
 - 5) 隠れ世帯
- 1) ~ 3)を含むのが一般的

2) 見えにくい女性の貧困

広い意味でのホームレスの概念図



2)見えにくい女性の貧困

ホームレスのうち女性の割合

- 路上生活者調査 3.2%
厚生労働省, 2012 『ホームレスの実態に関する全国調査報告書』
- ネットカフェ難民調査 17.2%
厚生労働省職業安定局, 2007, 『住居喪失不安定就労者等の実態に関する調査報告書』.
- ホームレス支援団体が運営する施設等の入所者調査 6.5%
特定非営利活動法人ホームレス支援全国ネットワーク広義のホームレスの可視化と支援策に関する調査検討委員会, 2011, 『広義のホームレスの可視化と支援策に関する調査報告書』.
- 福祉事務所においてホームレス状態の人に生活保護開始決定したケース調査 11.9%
特定非営利活動法人ホームレス支援全国ネットワーク広義のホームレスの可視化と支援策に関する調査検討委員会, 2011, 『広義のホームレスの可視化と支援策に関する調査報告書』.

女性は「隠れたホームレス」になりやすい

2) 見えにくい女性の貧困

なぜホームレスに女性は少ないのか(1)

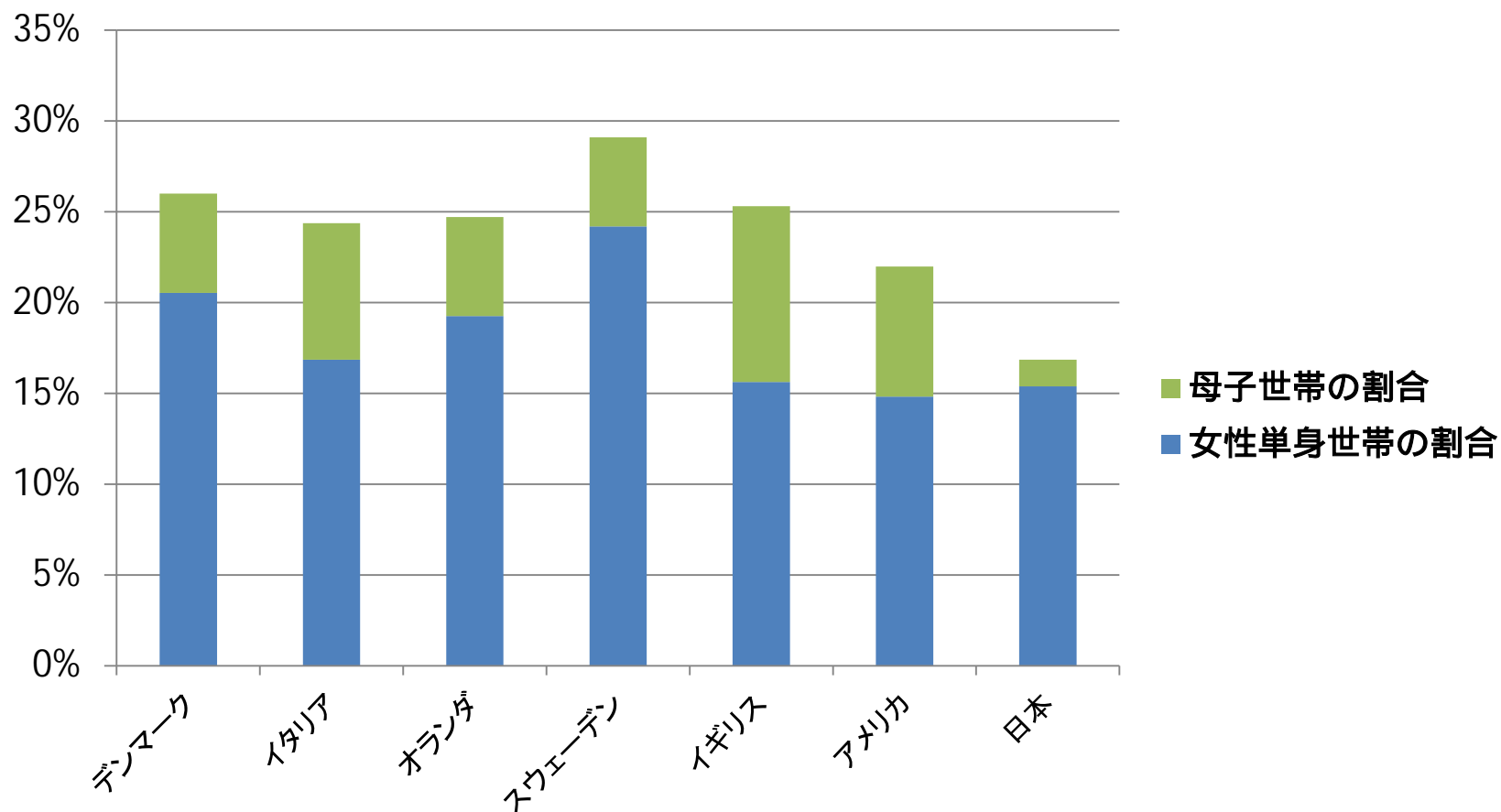
女性の貧困は世帯のなかに隠れ、そもそも女性世帯が形成されにくい

貧困の女性化(貧困世帯のなかで、女性世帯が半数以上を占める現象)は日本では顕在化していない。「日本は特別なケース」「日本の女性は貧困の女性化を達成するほど自立していない。離婚や経済的自立には手が届かないのだ。」

Axinn, June, 1990, "Japan: A Special Case," Gertrude Schaffner
Gordberg and Eleanor Kremen eds., The Feminization of Poverty: Only in
America?, New York: Praeger Publishers

2) 見えにくい女性の貧困

全世帯数に占める女性世帯 (母子世帯 + 女性単身世帯)の割合



2)見えにくい女性の貧困

なぜホームレスに女性は少ないのか(2)

スティグマをともなう低水準のものではあるが、
女性は福祉制度を活用しやすい

ホームレスの人がおもに利用する福祉施策

- ・ホームレス自立支援法 男性
- ・生活保護 ジェンダーの区別はない
- ・母子福祉・売春防止法・DV防止法 女性

「売春するおそれ」を拡大解釈する形で、
さまざまな(单身)女性の保護に活用されている

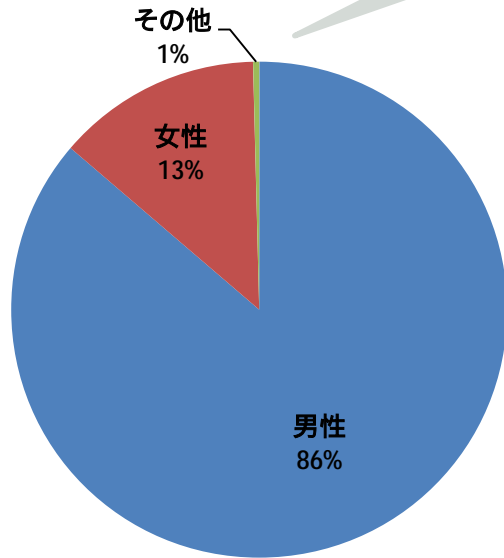
3) もやい女性相談者の特徴

- 東京で貧困支援を行うNPO法人 自立生活センター・もやいの活動のなかでの生活相談事業
- 2004年～2011年7月に相談に訪れた2305ケースの分析
- 相談者 = 貧困とは限らない

3) もやい女性相談者の特徴

相談者の数と年齢

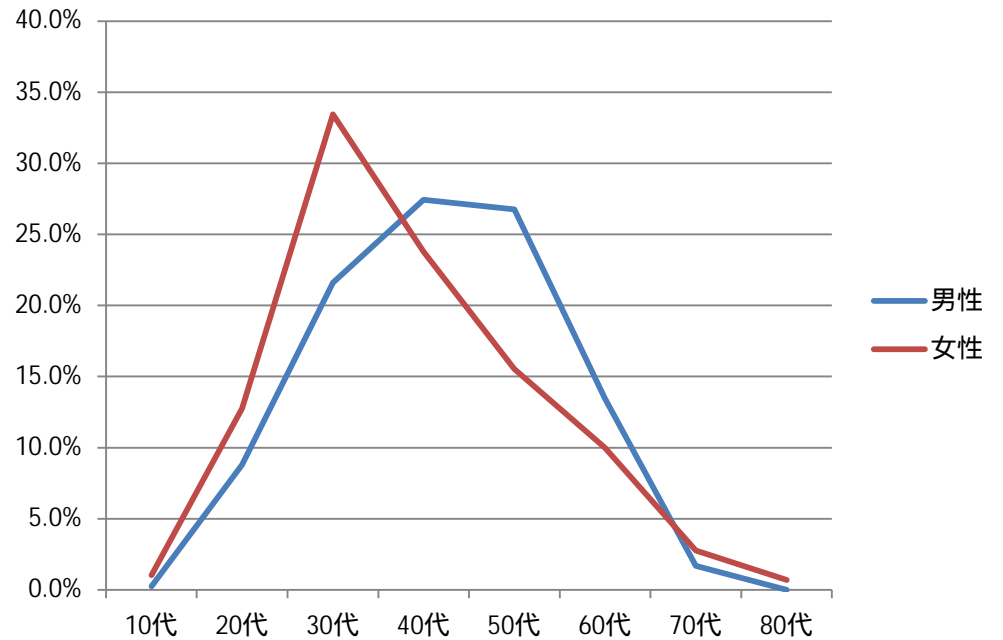
相談者の数



女性相談者は
少ない

女性の方が
若い

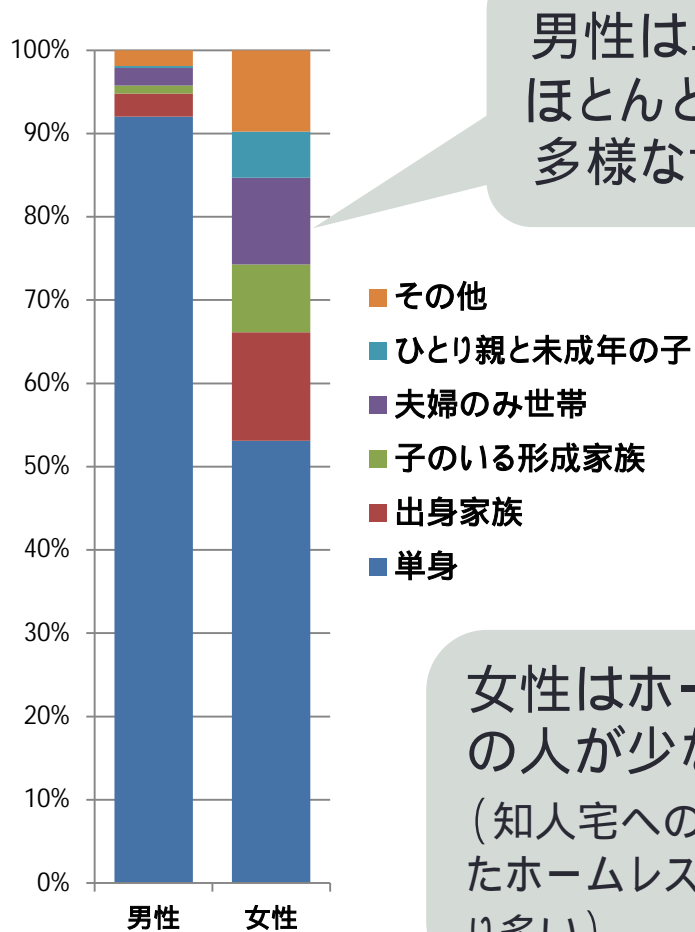
年齢



平均年齢 男性 46.5歳
女性 42.9歳

3) もやい女性相談者の特徴 世帯構成と居所

世帯構成

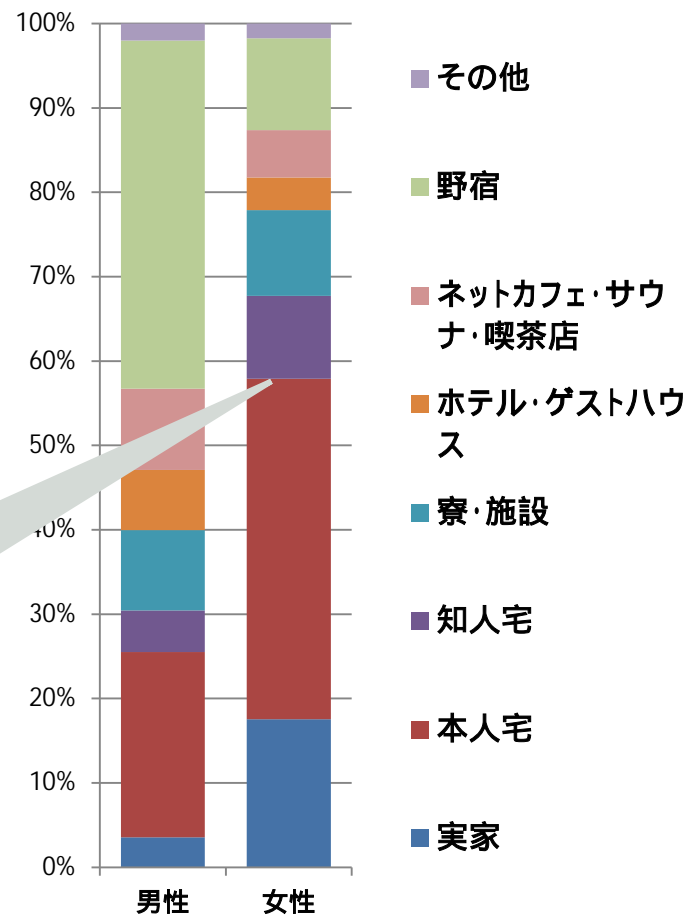


男性は単身者がほとんど、女性は多様な世帯構成

- その他
- ひとり親と未成年の子
- 夫婦のみ世帯
- 子のいる形成家族
- 出身家族
- 単身

女性はホームレス状態の人が少ない
(知人宅への居候など隠れたホームレスの人は男性より多い)

居所

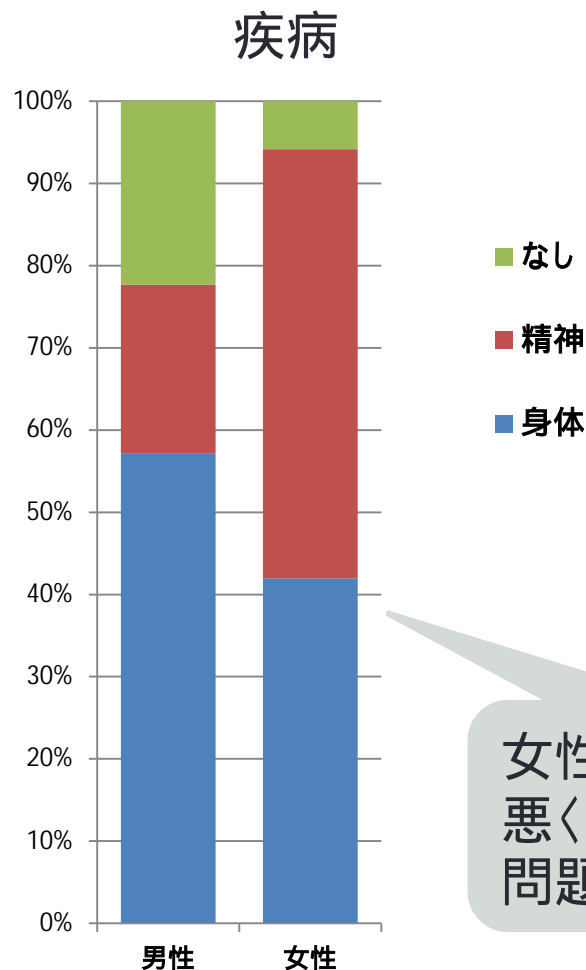


- その他
- 野宿
- ネットカフェ・サウナ・喫茶店
- ホテル・ゲストハウス
- 寮・施設
- 知人宅
- 本人宅
- 実家

3) もやい女性相談者の特徴

暴力の経験と健康状態

虐待・DVなど、暴力被害の経験を語った人が多い
(54 / 303人)

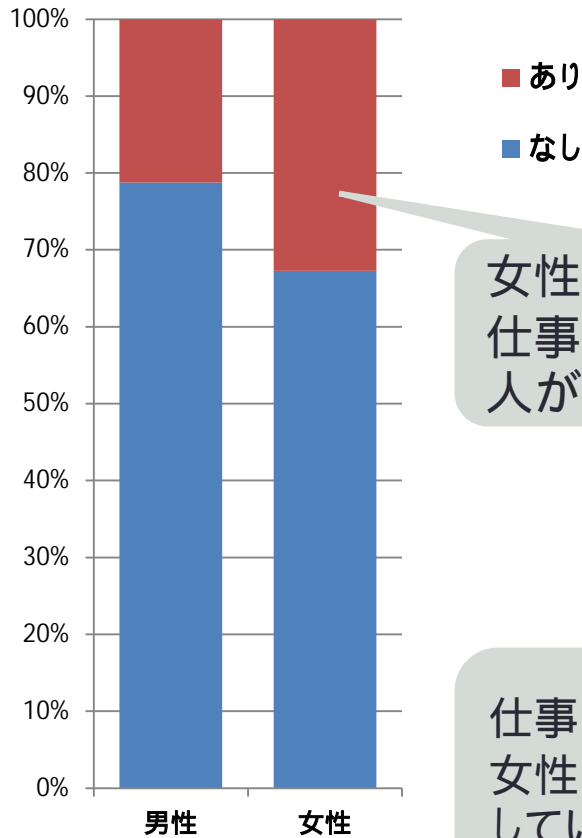


女性は健康状態が悪く、メンタル面に問題を抱える傾向

3) もやい女性相談者の特徴

職業——女性は男性より安定した層が相談に？

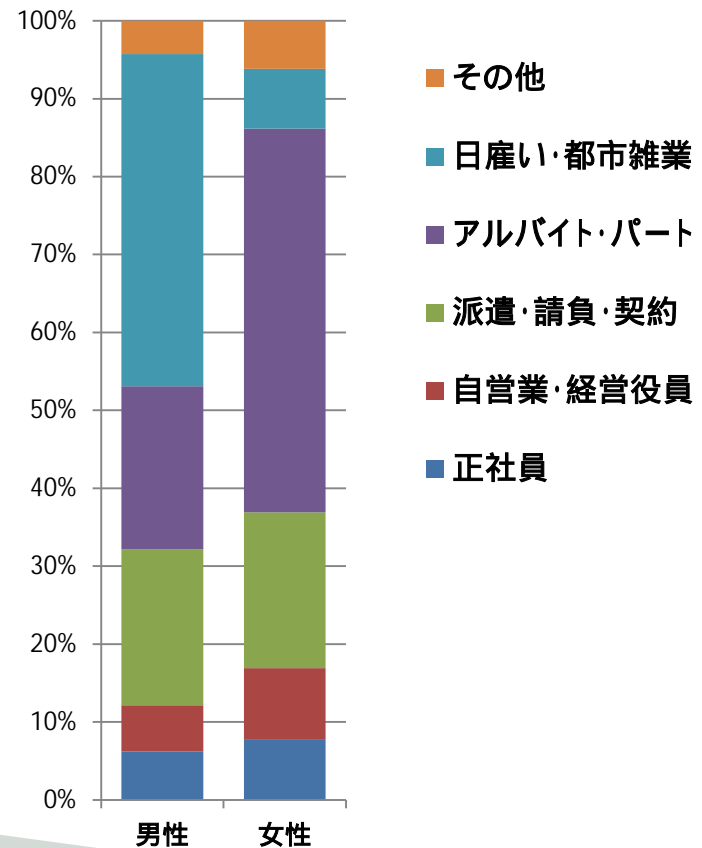
現職の有無



女性の方が
仕事についている
人が多い

仕事内容も
女性の方がより安定
している

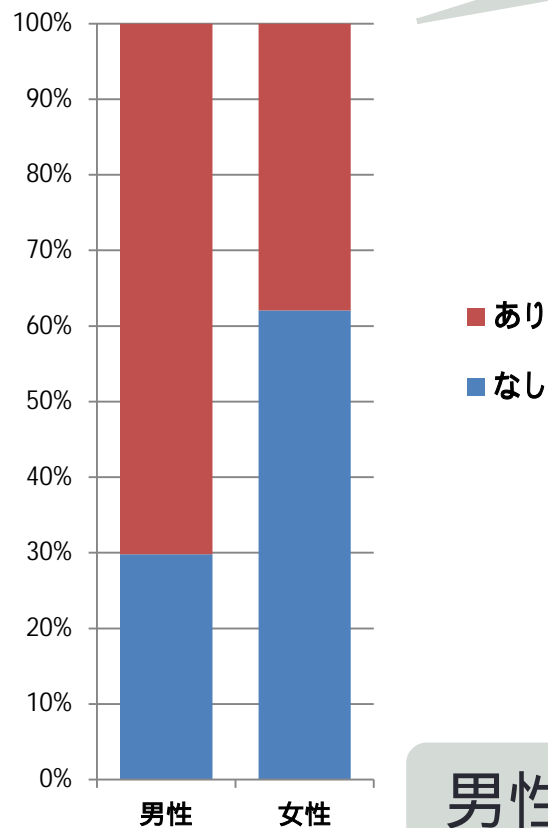
現職の従業上の地位



3) もやい女性相談者の特徴

所持金と生活保護申請——女性は男性より安定した層が相談に？

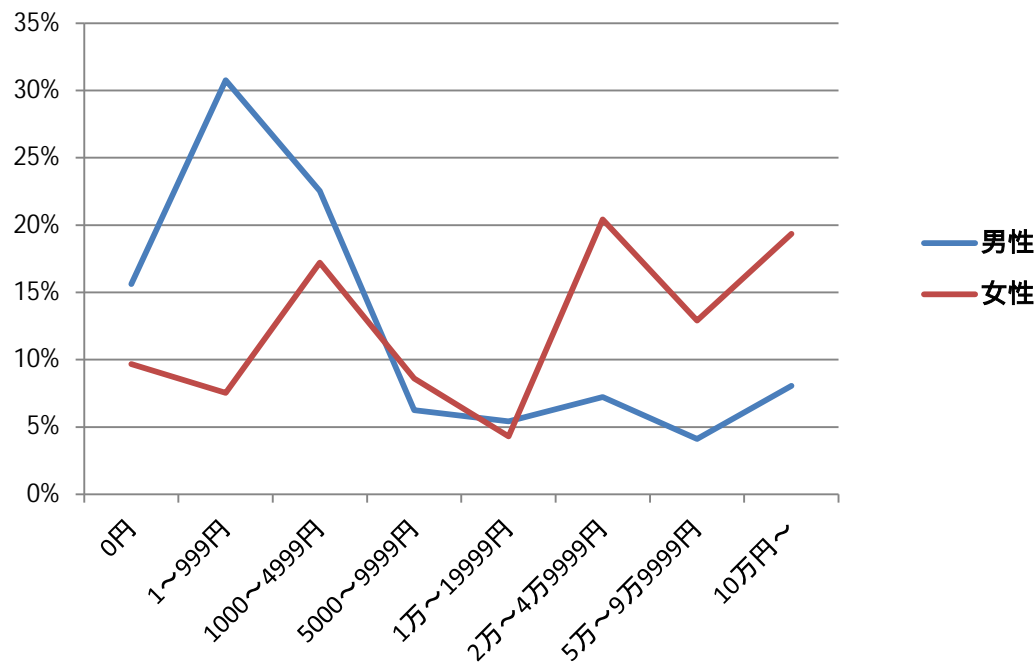
生活保護申請の有無



女性は相談の結果、生活保護を申請する人が少ない

女性はお金を持っているうちに相談に来る傾向

所持金



男性と女性とでは貧困リスクの認知度が異なる？

3) もやい女性相談者の特徴

貧困を把握する際の前提にある「世帯」概念

- 貧困の把握は世帯を単位として行われるのが一般的
貧困率の測定方法: 「世帯の合計可処分所得を世帯人数の平方根で割った中央値の50%を貧困線とし、それ以下の人の割合
- 「所得が世帯内で平等に分配されていること」が前提
- 「男性の所得で暮らしている女性であっても、離婚による貧困の可能性から決して防御されているわけではない」

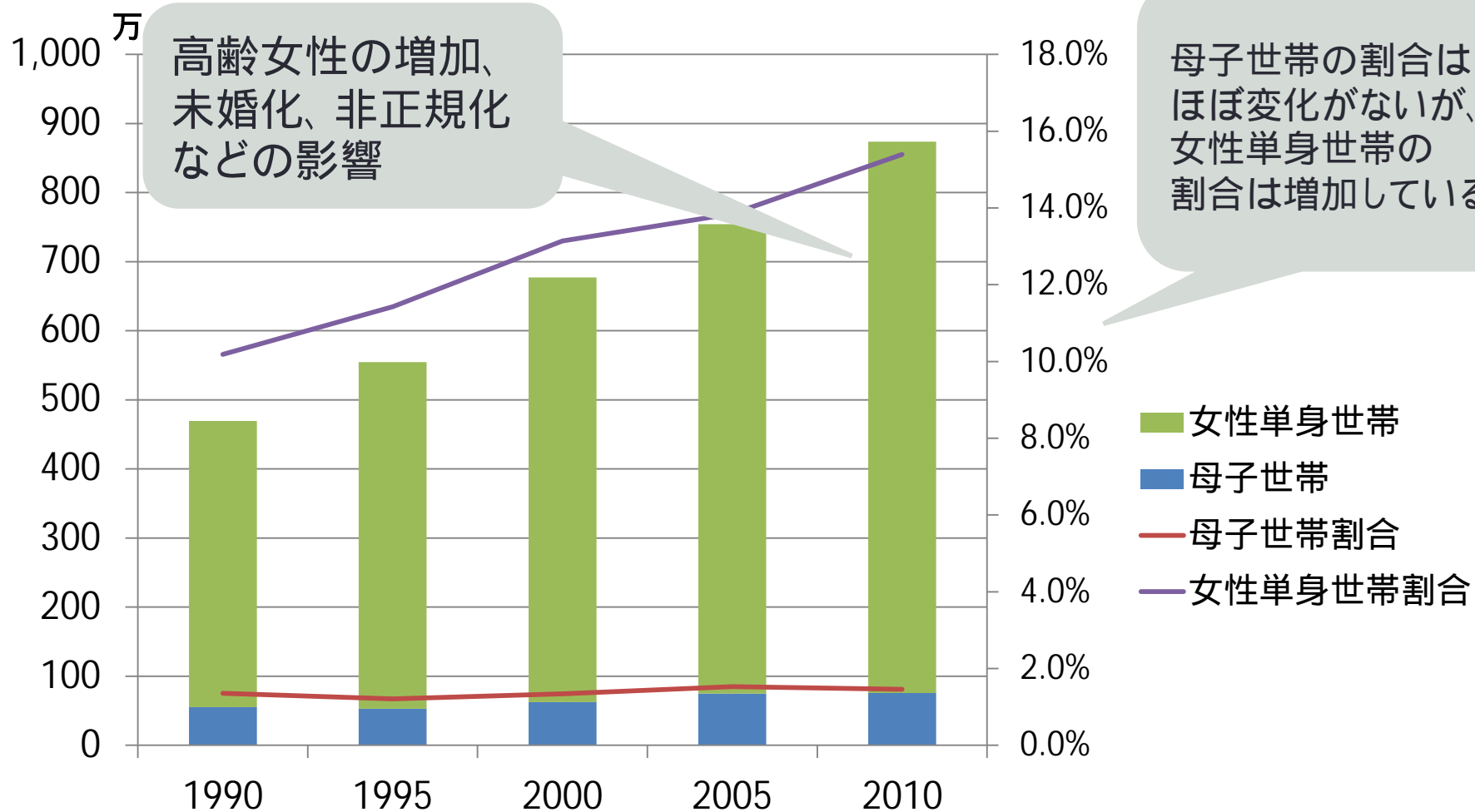
室住真麻子, 2006, 『日本の貧困——家計とジェンダーからの考察』法律文化社

世帯内の貧困をとらえられない

貧困統計を見るときにも注意が必要

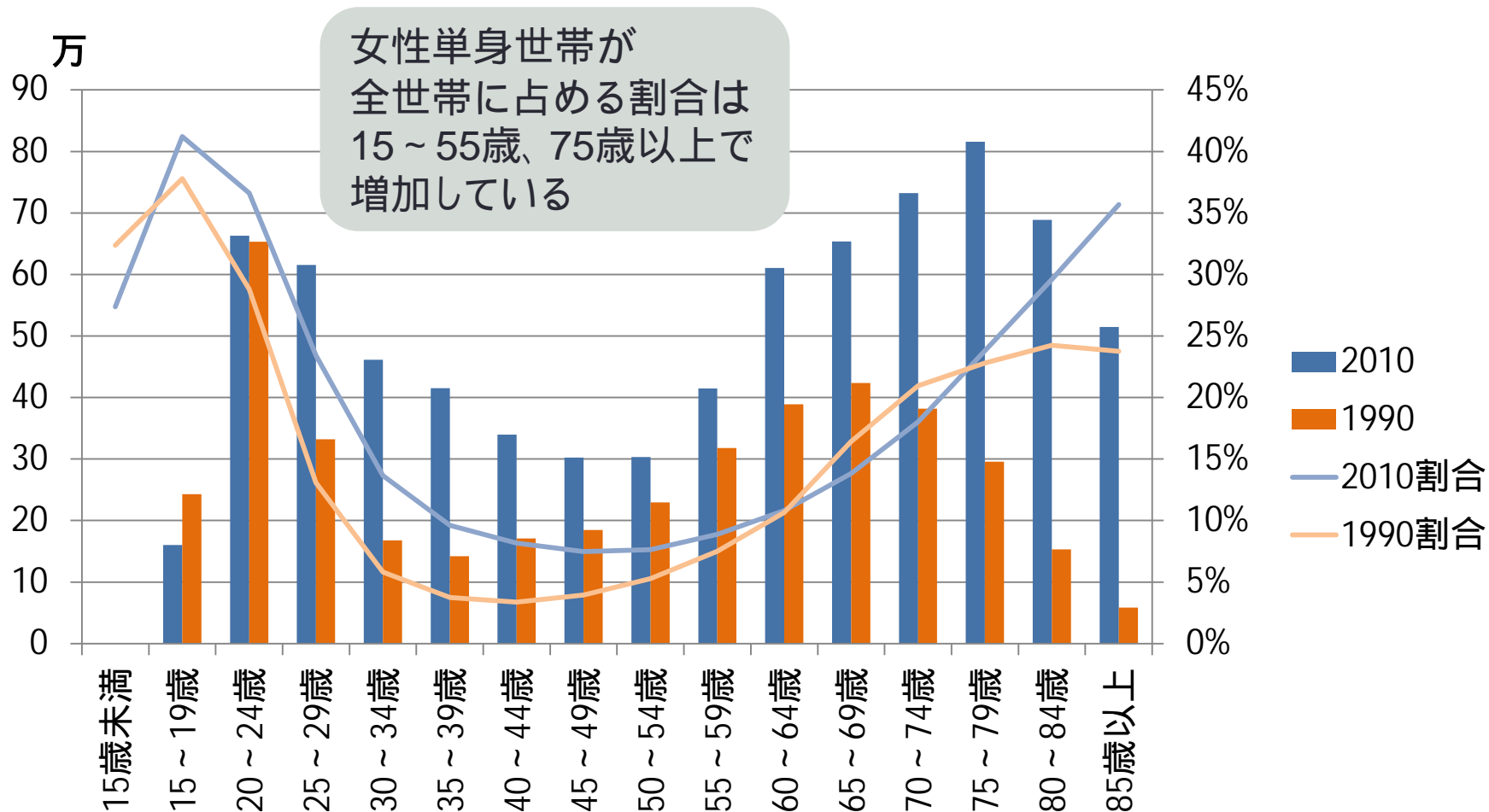
4) 近年の変化と若年女性

女性世帯数と全世帯に占める割合

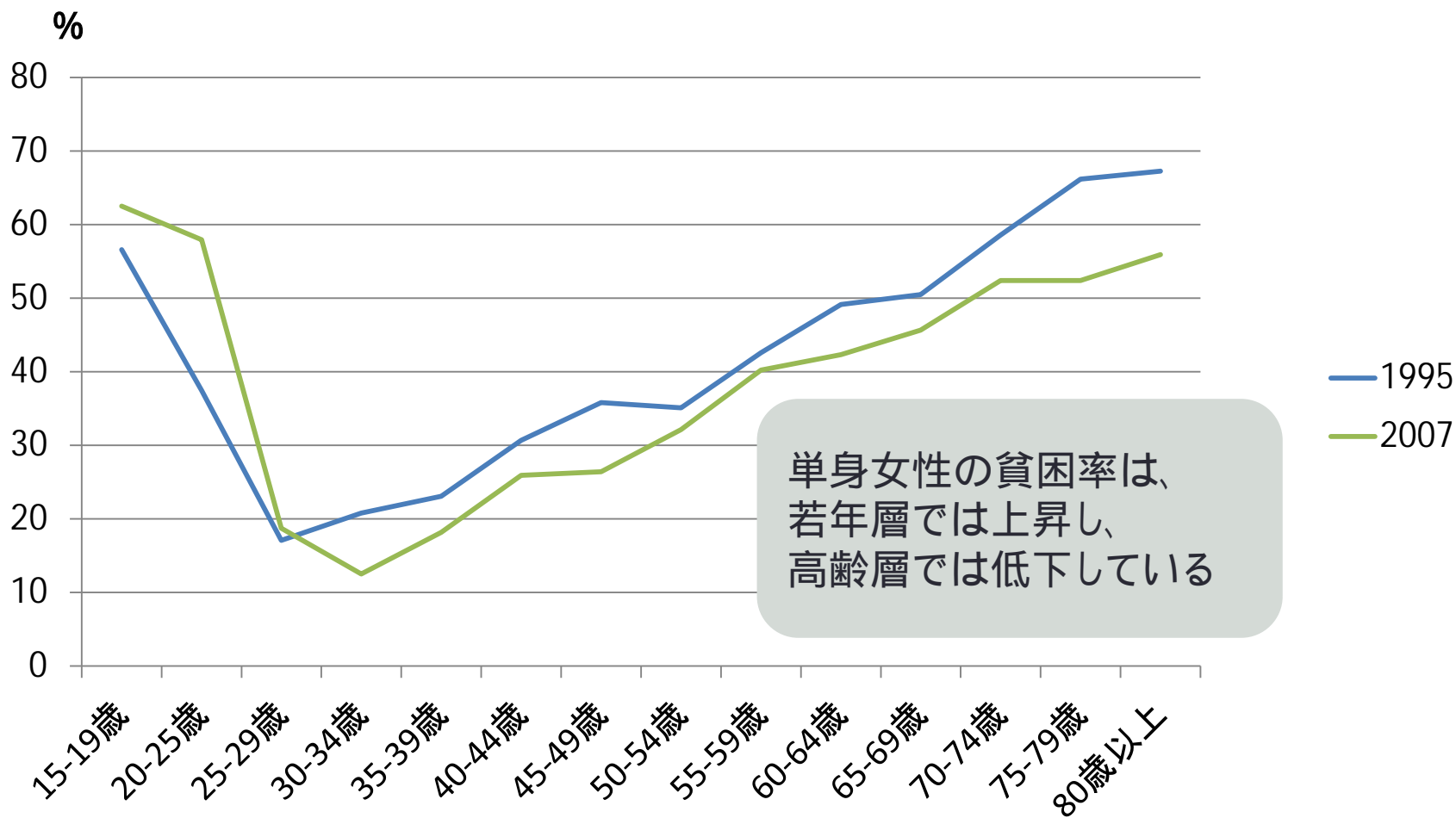


資料: 総務省『国勢調査』(平成22年、平成12年、平成2年)より作成

4) 近年の変化と若年女性 女性単身世帯数と全世帯に占める割合の推移



4) 近年の変化と若年女性 単身女性の貧困率の推移

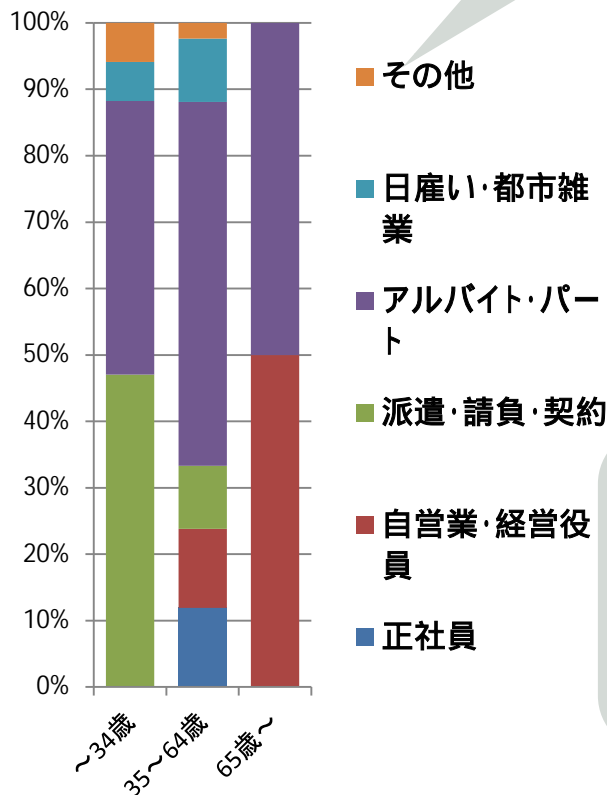


資料: 『生活困難を抱える男女に関する検討会』(2010)より作成

4) 近年の変化と若年女性 もやい若年女性相談者の特徴

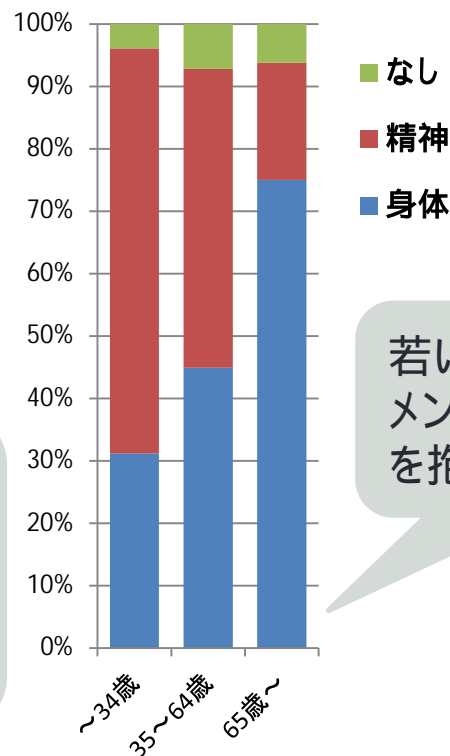
若い人ほど非正規
雇用が多い

現職の従業上の地位



若くして妊娠・出産を
経験している人が
多い (~25歳の相談
者の6/18人)

疾病



実家に頼れない
・頼りたくない
と語る人が多い

若い人ほど
メンタル面に問題
を抱える人が多い

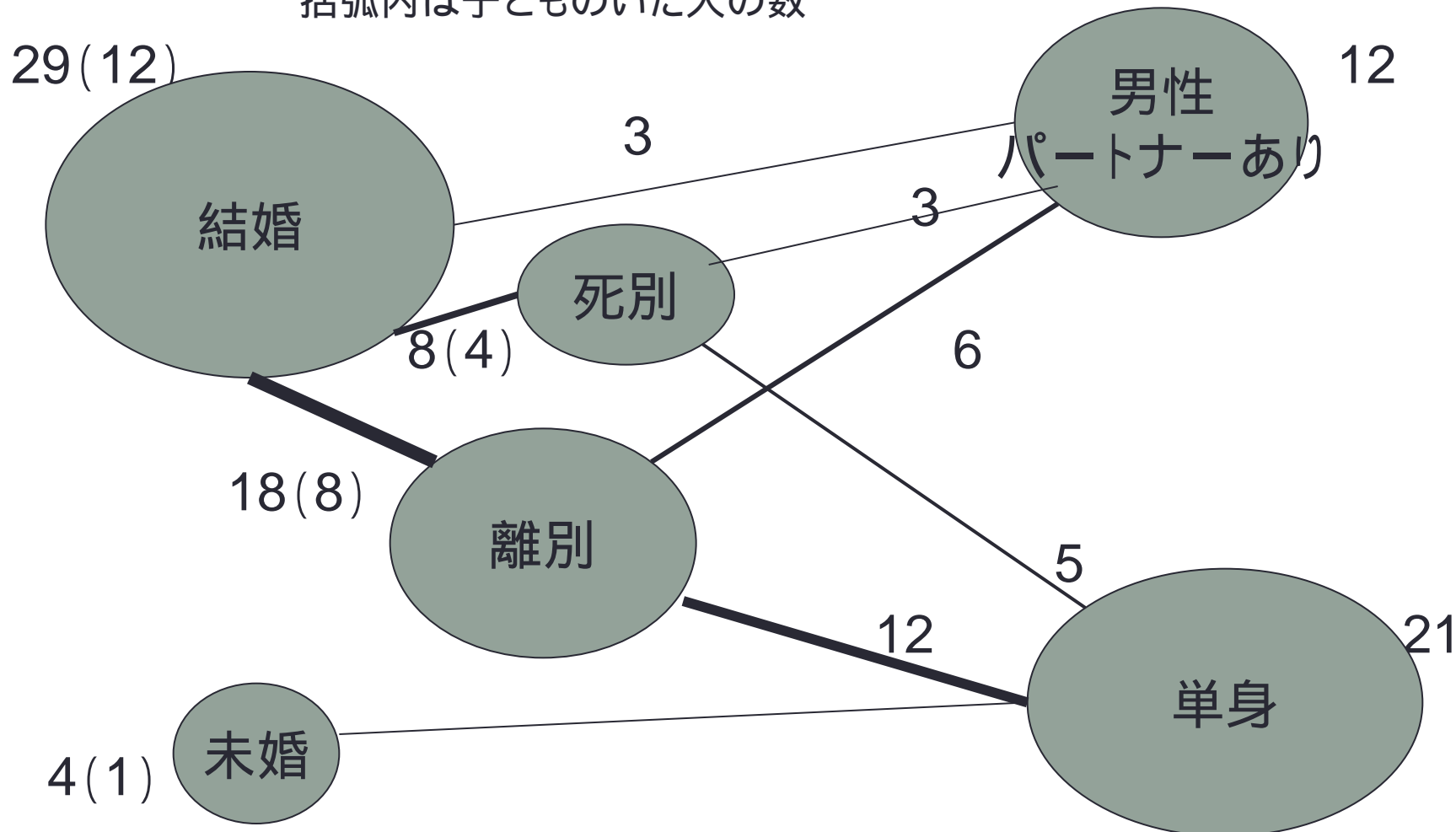
5) 女性ホームレスの生活史の特徴

(33人の路上・シェルターの女性の聞き取りから)

- 平均年齢 59.0歳
- 早くに離家 (18歳未満で離家したのは14人)
- 学歴が低い (中卒18人・高卒8人)
- 夫と離死別した人が多い(離別18人・死別8人)
- 子どもがいない人が多い (20人)
- 低賃金の不安定労働に就いている
(10年以上正規雇用に使っていた経験があるのは4人)
- 障害があると思われる人も (診断があるのは4人)
労働、家族1(夫)、家族2(父)に、ほとんど包摂された経験がない (本人が正規雇用、もしくは正規雇用/安定した自営業の夫と20年以上婚姻関係を継続していたという人は、3人のみ)

5) 女性ホームレスの生活史の特徴 婚姻歴

括弧内は子どものいた人の数



5) 女性ホームレスの生活史の特徴

女性のホームレス化の過程

1) 夫の失業型 11人

男性パートナーの失業にともないホームレスに

2) 本人の失業型 16人

未婚または夫と離死別後、本人が失業してホームレスに

3) 関係性の喪失型 7人

夫・息子からのDVなど人間関係から逃れてホームレスに

6) 今後必要な政策

- 経済的自立が可能な条件を整えること
 - ・最低賃金のアップ
 - ・男性正社員の長時間労働の抑制と正規雇用の拡大
共働きモデルへ(男女ともに子育てと賃労働を)
 - ・非正規雇用を対象とした社会保障の拡充
- 人生の早い時期に社会に包摂されるようにすること
包摂された経験が乏しい人は、生活技術(金銭管理、自炊など)を十分に身に付けておらず、生活保護を受給したのちも、困難を抱えがち